

## 知的障害者(児)支援にかかわるミニ講座開講

〜 関心高く、会場超満員・受講生の皆さん真剣な取り組み 〜



知的障害の方々が行き交う場所を開設するにあたってかかわるスタッフのための講座が5月27日から始まりました。講座への反響は大きく、定員をはるかに越える申し込みがあり、切実な問題であることがよく分かります。

知的障害者について学ぶ  
 五月二十八日の朝日新聞に

■一日目の午前は、一宮市障害福祉の真野係長から、市の知的障害福祉の現状と今後の方針を伺いました。市では、今後小規模作業所を多く取り組んでいきたい考えを示唆。質問が出された十五年度から変更される障害者福祉サービスについて、国の方針がまだ明確ではなく、明快な答えは伺えませんでした。

■午後の講義は、名古屋で知られる障害の方を二十四時間対応されているコンビニエンスストアのコーデイネーターの市江さんにお話しをいただきました。市江さんは、「サービスは、ニーズから生まれる。必要とされる時に、必要とされることを提供することが大事ではないか」と重い言葉を残されました。

◆ ◆ ◆  
 当会が、このことにかかわると決まっていますが、市内の幾つもの施設や授産所、学校、愛知県コロニーの施設にも訪問させていただきました。

◆ ◆ ◆  
 訪問させていただいて、本当に知的障害者への方が行き交う場所が少ないことが分かりました。しかも、どこも満杯で、退所される方はほとんどなく、大きな入所施設では本来の目的を失っています。

◆ ◆ ◆  
 施設や授産所の不足  
 掲載されていた「知的障害者が起こした事件を契機に、住民が模索し始めた、皆が住みやすい街とは」の記事の中にも「知的障害者について一私達も学ぶ必要がある」と被害者である辛い立場のご家族が語っておられます。

ほんの一端を垣間見せていただいで、同じことを思っています。先ず、多くの皆さん方が知的障害者のことを、おかれていた現状とケアの現場を、施設の現場を知ることです。これまで、隔離された世界で、知る機会が殆どありませんでした。従って、理解が出来ませんでした。しかし、それだけではなく、私達は知ろうとしてこなかったのではなうでしょうか。

◆ ◆ ◆  
 新しく学校を卒業された方が、行くところがないとお話話を下さったお母様のお話しは特別なことではないと感じられました。

◆ ◆ ◆  
 障害の重さは様々で一概には言えませんが、少なくとも地域のなかで自立した生活が可能でない、受け入れられる場所作りが必要だと思われました。平成十五年から知的障害者の福祉サービスも措置から選択に変わりますが、到底選択の余地はないようです。在宅のサービスもどこまで支えられるかも分かっています。地域の中でどう自立しているか、街の中を共生の場にしていくことが出来るのでしょうか。当会が行おうとしている事は、砂漠の一粒の砂のようなものだと思います。でも、窓の口はいつも一から始まるものです。皆さんに教わりながら、一緒に窓を育てていただきたいと思います。

## ◆ ◆ ◆ 総会開催 ◆ ◆ ◆ 特定非営利活動法人「尾張地域福祉を考える会 まごころ」

平成14年度・新たに一步

「必要なことを / 今必要だから / 具体的な活動に / つなげていく」

- ・ 知的障害を持つ方々とのふれあいの場を開設(7月から月曜日・水曜日・金曜日) 少し体の弱い高齢者の方や一人暮らしの方もふれあい広場で
- ・ ミニデイサービスが毎週火曜日と木曜日になります(火曜日が増えました)



◆ ◆ ◆  
 会は五月十九日(日)九回目の総会を、新しい事務所一階「ふれあい広場まごころ」で開催しました。

◆ ◆ ◆  
 詳細な活動収支報告と新規事業説明  
 助け合い活動を拡充のため、平成十三年度も介護保険事業から助け合い活動へ  
 およそ四〇〇万円の補填

平成十三年年度の事業、活動、会計報告を事務局が行い、借り入れをしての事務所移転、当会の方針であるNPO法人としての助け合い活動の拡充の意味と、それに伴う財政状況の詳しい説明を重ねて行いました。十三年度も、介護保険だけではカバー出来ない有償の在宅や移送支援、無償のミニデイ活動を支える事務局及びスタッフ人件費の補填、さらに事務所移転に伴うふれあい広場の改築経費や啓蒙啓発活動事業などの補填に約四〇〇万円を財政支援した経過を報告、審議されました。

◆ ◆ ◆  
 両輪は会の誇り  
 「まごころ」の介護保険事業と助け合い活動が車の両輪で地域福祉を考え、互いに支え合いながら活動を行っていることを誇りとし、地域の声にこたえられるような活動にしていけることを会員一人一人が確認しあいました。

◆ ◆ ◆  
 地域の方々の交流  
 総会後、ミニデイサービス参加の皆さんによる演技を楽しみながら、お集まりくださった30名程度の地域の皆さんと交流をはかりました。田楽と五目おこわをいただきました。新しいふれあい広場と当会の活動を紹介させていただき、早急、ボランティアの申し出をいただいたりしました。地域の皆様今後ともよろしくお願い致します。



◆在宅支援 (助け合い活動と介護保険事業合計)	延べ件数	892件
	ケア時間数	14,202時間
	訪問回数	10,555回
◆移送サービス		704件
◆ミニデイサービス 延べボランティア人数707人	実施回数	59回
	延べ利用者数	636人
◆施設ボランティア	実施回数	94回
◆啓蒙啓発活動	・会報の発行	毎回450部 12回
	・小規模出前介護講座 (2回)	アルツハイマービデオ上映・排泄とおむつについて 貴船連区と北方連区 98名
	・講演会	ふれあい社会づくり堀田力講演会 350名
	・介護講座	痴呆について考える映画と勉強会 120名
	・勉強会(4回)	音楽で元気に 41名 食品衛生、看護と介護、薬、リハビリ 120名
◆一宮市委託講座	痴呆予防、家族介護、自立支援講座	6日

「平成13年度の主な活動報告」

報告  
 一宮市から平成14年度の介護予防講座の委託を受けました  
 一宮市から当会へ平成14年度補助金15万円が決定しました